～３０年度大雨から学ぶ～

平成30年（2018年）6月28日から雨が降り続きました。7月6日（金）の下校時刻には雨が激しくなりました。そこで，子供たちの安全を確保しつつ，2年生から6年生まで，地域ごとに先生が引率して下校することになりました。あっという間に水かさが増し，足首まで水がきており，水たまりを避けて安全な道を選んで子供と帰ることになりました。何とか，子供たちをそれぞれ無事に送り届けることができましたが，教師が学校に戻ってくる頃には，一部の道路では，冠水が見られるところもありました。

その夜，下弓削川が溢れ，学校の北側の地域は浸水することになりました。水位は，運動場の鉄棒の高さくらいまでとなり，その水が完全に引くまでに7日（土）のお昼過ぎくらいまでかかりました。

このことから，筑後川に通じる水門が閉められると，校区の一部道路及び学校周辺が冠水するまでは時間があまりかからないということが分かりました。

また，家路を急ぎ，裏道を通る車や冠水を避ける車で、校区中の道で渋滞が見られました。